

## 先進事例検索システム

事例No.	1460
公表年度	R3
団体の属性	町村
団体名	北海道安平町

事例区分 (大)	行政改革
-------------	------

事例区分 (小)	公共施設活用
-------------	--------

事例種類	公共施設の効果的活用
------	------------

### 事例内容・タイトル

交流人口拡大拠点施設への指定管理者制度の導入

### 出典

地方公共団体における行政改革の取組（令和4年3月公表）

- 北海道胆振東部地震からの復興シンボルとして整備した「道の駅あびらD51ステーション」を交流人口の拡大に向けた拠点施設に位置づけ、指定管理者制度を導入

〈町と指定管理者は政策推進上のパートナー〉

## 課題

- 札幌市や新千歳空港に近接する良好なアクセス環境に加えて、北海道らしい風景や優れた特産品に恵まれている一方で、地域の魅力発信が課題となっており、まちの強みを十分に生かすきれない状況だった

## 取組

- 指定管理者を政策推進上の「パートナー」と位置付けて、町と指定管理者が一体となって地域の魅力発信を強化
- 地域の魅力を熟知している町と指定管理者が連携して、地域資源を活用した新たな特産品・名産品を開発（例：特産のチーズ等）したほか、町の発展を支えた鉄道文化を感じることができる鉄道車両を活用したイベントを実施

## 成果

- 「地場産品の集結」という施設コンセプトのもと、地場産品を用いたご当地メニュー等を取り揃えることにより、道内外に食の魅力のPRや販路拡大に大きく寄与
- 賑わい創出を推進し、町へのリピーターやファン獲得につなげ、安平町の歴史・文化の魅力発信に大きく寄与
- 町の知名度上昇にも寄与



〈道の駅あびらD51ステーション〉